

環境のあゆみ 2022

メロディアン株式会社
 ホームページ
<http://www.melodian.co.jp>



会 社 概 要

代 表 者	代表取締役社長 中西 優紀雄
創 業	昭和 33 年 12 月 6 日
設 立	昭和 36 年 9 月 20 日
資 本 金	9,850 万円
売 上 高	103.6 億円 (2022.03)
従 業 員 数	285 名 (2022.04)
事 業 内 容	コーヒーフレッシュ、シロップ、美と健康飲料、及びデザート等の食品製造販売、化粧品販売、衛生用品の製造販売

沿 革 (環境関連を中心に掲載)

昭和 33 年 12 月	大阪府八尾市に日興乳業創業
昭和 36 年 9 月	日興乳業株式会社を設立
昭和 61 年 1 月	三重工場建設 敷地面積 1 万坪 40 億円投資
平成 元年 6 月	メロディアン株式会社に社名変更
平成 2 年 4 月	国際花と緑の博覧会「MELODIAN LAND」出展
平成 3 年 1 月	環境対策委員会を発足
平成 4 年 4 月	『環境対策委員会のあゆみ』(現:環境のあゆみ)を発刊
10 月	株式会社メロディアンメンテ設立
11 月	『日本高山植物保護協会(JAFPA)』へ法人入会と関西支部設立に協力
平成 5 年 3 月	社用車のディーゼルエンジン車からガソリンエンジン車への全面切替を決定 (NOx 対策)
平成 6 年 6 月	三重工場排水処理設備の増設
平成 8 年 5 月	三重工場へ高温焼却炉を設置 (ダイオキシン対策)
平成 10 年 3 月	社用車のガソリンエンジン車輻への全面切替完了と低公害車導入の決定
12 月	三重工場が ISO9002 の認証を取得
平成 12 年 1 月	ISO14001 を全社一斉認証取得
平成 13 年 10 月	認証取得範囲を企画開発部門まで拡大し ISO9001 へ更新
11 月	三重工場の焼却炉運転の全面停止 (平成 14 年 3 月撤去)
平成 14 年 1 月	三重工場から埋め立て処分場へ直接排出される廃棄物の撲滅達成
2 月	三重工場排水処理施設へ膜濾過設備を導入
12 月	三重工場にて HACCP 承認 (清涼飲料水ライン、他)
平成 17 年 1 月	社用車へハイブリッド車の導入を開始
11 月	株式会社メロディアンハーモニーファイン設立
平成 19 年 3 月	三重工場へ中身入ポーション破砕分別設備を導入
10 月	研究所開設
平成 20 年 4 月	ISO14001 認証取得範囲から営業所等を除外し準適用組織化
平成 22 年 2 月	三重工場へ LPG 仕様のボイラー設備を導入
平成 27 年 2 月	製造委託先との業務提携にて名古屋工場でのポーション製品の生産開始
11 月	三重工場 A 重油仕様ボイラーを LNG 仕様へ更新
平成 28 年 2 月	三重工場が FSSC22000 の認証を取得
9 月	関東工場竣工
平成 29 年 8 月	関東工場が FSSC22000 の認証を取得
平成 30 年 12 月	関東工場が ISO14001 の認証を取得
令和 3 年 12 月	ISO14001 の認証返上を行い、今までの規格運用実績をベースに、独自運用開始

事 業 所 一 覧

本社	〒581-0833	大阪府八尾市旭ヶ丘 1-33
研究所	〒581-0869	大阪府八尾市桜ヶ丘 2-128-1
東日本事業所	〒151-0053	東京都渋谷区代々木 4-29-4 (西新宿ミノシマビル 3F)
中部営業所	〒450-0002	名古屋市中村区名駅 4-2-7 (丸森パークビル 5F)
中四国営業所	〒700-0907	岡山市北区下石井 1-1-3 (日本生命岡山第 2 ビル 5F)
九州営業所	〒812-0014	福岡市博多区比恵町 1-30 (サンいずみビル 3F)
三重工場	〒518-1151	三重県伊賀市白檜 2816-6
関東工場	〒372-0011	群馬県伊勢崎市三和町 2742-1

経営理念

—— 社 是 ——

1. 信頼され、愛される人間になろう。
1. 信頼され、愛される商品をつくろう。
1. 信頼され、愛される企業になろう。

—— 基本方針 ——

当社は、豊かな食文化の創造をめざし、真実と信頼の経営を展開して、顧客、取引先ならびに社員の繁栄と幸福に最大限寄与することにより、以下の5項目を基本方針とします。

- 一、信頼される商品の提供、および誠実かつ積極的な社員の人間形成を通して、企業の信頼性を向上させます。
- 一、市場環境の変化に対応した着実な規模の拡大と、経営管理システムを強化・徹底して、収益構造を強化します。
- 一、顧客第一主義にもとづいた、『おいしさはしあわせ』『美と健康』をテーマに創造性豊かな新製品の開発を目指すとともに新市場開拓をより一層推進します。
- 一、法令遵守を基本に、環境保全にも積極的に取り組み、広く社会や顧客に支持される企業づくりを目指します。
- 一、働き甲斐の創造につながる、明朗かつ風通しのよい職場環境づくりを推進します。

環境方針

1. 基本理念

私たちメロディアングループは、高山植物保護活動をはじめとして、地球環境の保全に積極的に取り組み、社会や顧客から支持される企業作りを目指し、「物を大切に」「資源を大切に」「自然を大切に」を基本に、環境負荷の低減を図ります。

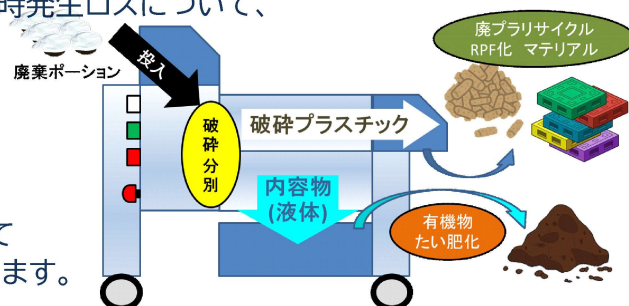
2. 基本方針

- 1) 当社独自に構築した環境管理システムの維持・運営を行い、外部取引先様と共に環境保全活動を推進し、環境汚染の防止と環境負荷低減の継続的改善を図ります。
- 2) 環境関連法規制、地域との協定などの順守と、これらの管理基準を整備し、管理状態の維持・向上を図ります。
- 3) 環境保全活動の目的・目標を定め、これを定期的に見直すと共に、その達成を図ります。
- 4) 無駄の排除・抑制及びリサイクルなどによる、資源の有効活用を図ります。
- 5) 電力・燃料など、エネルギーの効率的利用を推進し地球温暖化防止を図ります。
- 6) 従業員への教育、社内広報活動などを実施し、全ての従業員に対して、環境方針の周知及び環境に関する意識の向上を図ります。
- 7) この環境方針を社外へも公開し、達成を図ります。

環境配慮活動への貢献

内容物入りポーション廃棄削減取り組み

弊社主力商品である液体充填されたポーションの製造時発生ロスについて、焼却埋め立て処分していたものを、可能な限り廃棄物を減らすべく、「**破碎分別機**」を導入し、廃棄ロスとなるポーションを、一旦破碎し、内部で分別・乾燥させ、外包材と液体内容物に分けて排出し、それぞれ“**廃プラリサイクル**”と“**たい肥化有機物**”の原料として再利用させ、年間廃棄物排出約 **50t削減**につなげております。



本社給食注文方法見直しによる食品ロス低減活動

本社・研究所社員の給食の当日申し込みに対応する為、予め余裕を持たせて発注していたものを、今までの「**当たり前**」を見直し、前週申し込み締め切りとして発注数を確定させたことにより、約 200 食／年の廃棄低減につながる見込みです。



地域美化活動

当社独自で「**クリーンウォーキング**」として、毎月第 2 水曜日の朝に、事業所周辺の清掃を行っており、感染症対策を取りながら、2021 年度も引き続き、継続して活動して参りました。



※『**クリーン・やおウィーク**』として八尾市主催で 2014 年度から実施されている一斉清掃キャンペーンおよび『**クリーンキャンペーン**』にも参加しております。

日本高山植物保護協会支援活動



1992 年(平成 4 年)の日本高山植物保護協会へ法人会員として入会以来、メロディアンは高山植物保護活動を通じて、環境保全活動に対する啓蒙活動を継続してきました。

メロディアン本社が関西圏にあることから、JAFPA 関西支部設立のお手伝いに参加させて頂いたご縁もあり、単に法人会員として入会し、経済的な支援に留まるのではなく、入会当初から関西支部の理事として社員を派遣させて頂き、また従業員や取引先様も会員として参加させて頂くなど、共に高山植物を通じて自然環境の大切さと環境保全への啓蒙活動に参加させて頂いています。

2021 年度も、コロナウィルス感染症の影響で、関西支部での活動は、すべて中止となりました。

2022 年度は、コロナウィルス感染症の影響を考慮しながら、関西支部活動再開を計画中です。

JAFPA ホームページ <http://www.jafpa.gr.jp/>

三重工場の省エネルギー活動

メロディアンの工場では、これまで企業活動に直結する様々な省エネルギーに関する取組を実施しています。ここでは、継続的な活動と設備更新による省エネ効果についてご紹介致します。

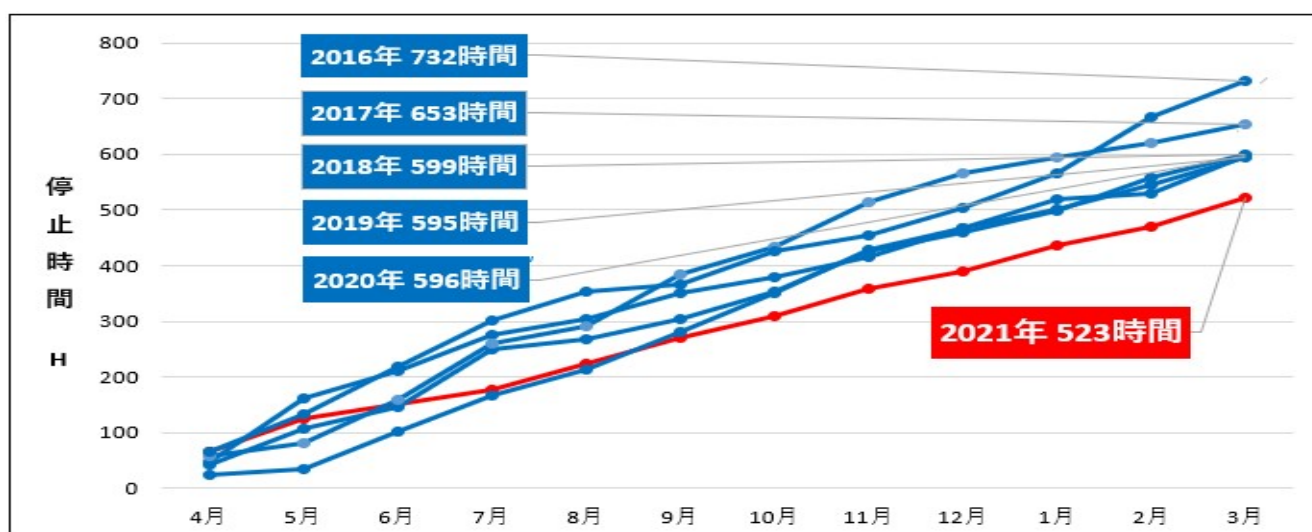
製造設備トラブル停止時間低減

全社に対して方針項目にも掲げて、工場全体で取り組んでいるこの取組は、長年培ってきた製造現場の知識と経験、そして継続した改善活動による賜物であります。

機械の修繕費用や、作業員の待機時間などは、そのまま製造コストにも直結します。トラブルによるイレギュラーな作業が原因の作業事故防止にもつながり、職場環境の改善にもつながっております。

2021年度は昨年対比 88%となり、2016年度からでは、約 28%低減、2018年度以降の停止時間は上昇する事無く推移しています。

さらなる改善が出来る様、今後も継続して取り組んで参ります。



アイスビルダー設備の更新

2020年1月、アイスビルダー(冷却用チルド水製造)設備の更新を行いました。冷媒ガスはオゾン層を破壊しない HFC(R410A)に切替され、冷凍機もインバータ化し、負荷に応じた制御運転が可能となりました。

外気温や生産状況に左右されますが、アイスビルダー設備全体の電力量は更新前との比較で約 16%減、100,000kwh の削減が出来ております。



殺菌機立ち上げ時間の最適化による蒸気使用量削減

濃縮コーヒーの製造ラインにおける殺菌機の昇温時間の分析により蒸気供給を1週間の製造あたり2時間分削減する事が出来月の消費で約 3,600kg の省エネが可能となりました。

2022年3月よりコーヒーラインが2ライン体制となった為、さらに省エネ効果は大きくなっております。

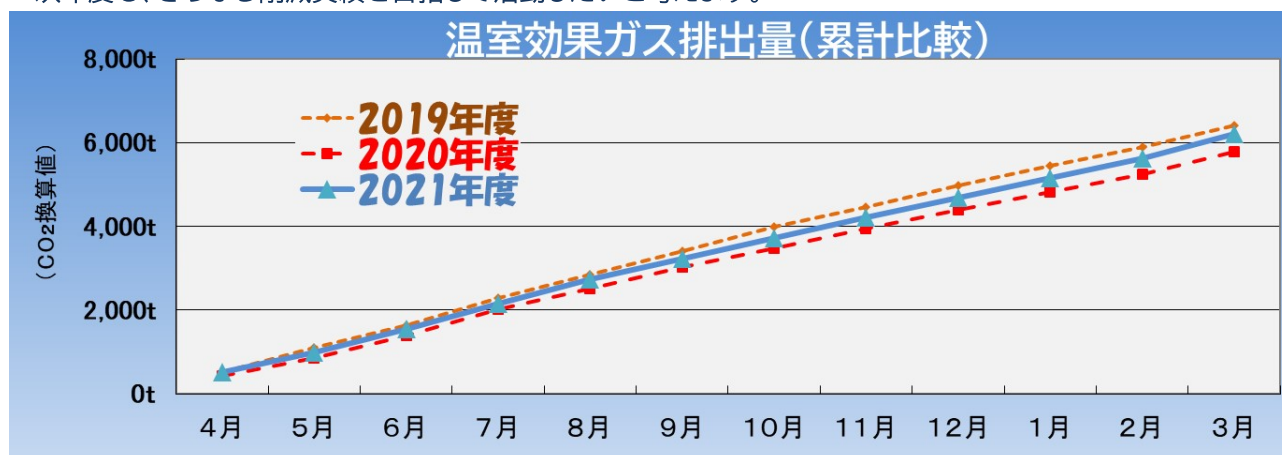


今後も、品質最優先の中で出来得る省エネ改善の取組を継続して参ります。

温室効果ガス排出量の推移(2019～2021 年)



事業活動に伴う温室効果ガス(GHG)の排出量低減を目標に様々な活動を実施してきました。
生産量はやや増加し 2020 年度に対してエネルギー使用が増えましたが、2015 年度に導入された LNG(液化天然ガス)式ボイラーによる温室効果ガス抑制効果も発揮され、2019～2021 年度比較で約 3%の排出量削減となり、目標達成となりました。
次年度も、さらなる削減実績を目指して活動したいと考えます。



排水処理の管理状況(三重工場)

三重工場の生産ラインから排出される排水の管理状況は、昨年の報告以降も下表の通り、関連する法規制の基準値を下回って問題なく推移しています。

また、関東工場もほぼ同様の管理を実施しており、基準内で問題なく推移しています。



■ 三重工場の排水処理後の測定値(実績) 単位：mg/L (但し、水素イオン濃度は単位なし、大腸菌群数は個/ml)

測定項目(基準値)	測定サンプル採取月と測定結果											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水素イオン濃度 (pH5.8～8.6)	7.30	7.50	7.50	7.40	7.70	7.40	7.30	7.40	7.50	7.00	7.10	7.20
生物化学的酸素要求量 (25 以下)	0.60	0.5 未満	0.5 未満	0.90	1.30	0.5 未満	0.5 未満	2.40	0.70	0.90	0.80	1.50
化学的酸素要求量 (なし)	10.00	15.00	9.00	9.80	12.00	7.60	8.40	21.00	13.00	9.40	15.00	16.00
浮遊物質量 (90 以下)	1.00	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.00	1.0 未満	1.0 未満	3.00	2.00	1.0 未満	7.00	2.00
カルシウム抽出物質 (30 以下)	1.00	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満	1.0 未満
全窒素 (120 以下)	1.60	21.00	20.00	17.00	8.60	17.00	18.00	23.00	1.50	6.00	11.00	14.00
全リン (16 以下)	0.01	2.10	2.00	1.40	0.14	1.60	2.10	3.00	0.08	0.64	1.20	0.81
大腸菌群数(3000 以下)	30 未満	42.00	67.00	85.00	62.00	30 未満	42.00	84.00	30 未満	30 未満	30 未満	30 未満
鉄 (10 以下)	0.60	0.70	0.50	0.50	0.60	0.40	0.1 未満	1.10	1.20	0.60	0.80	0.80
マンガン (10 以下)	0.10	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
アモニア、アモニア化合物、亜硝酸化合物 及び硝酸化合物 (100 以下)	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満	0.7 未満
亜鉛 (2 以下)	[年 1 回測定項目] 0.02 (2022 年 3 月採取)											
基準適合判定	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合

環境目的・目標の達成状況

2021 年度(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

環境目的・目標に対する達成状況は次の通りです。

環境目的	環境目標	評価	コメント
品質管理ならびに コンプライアンスの 徹底	クレーム件数の低減		クレーム件数自体増加し、課題として残る結果です。
	不適合件数の低減		期末に連続発生し、残念ながら未達の状況となりました。
	人的ミス件数		わずかに目標に届きませんでした。
CO2排出量 データの把握	環境データの 継続把握		温室効果ガス排出量換算の元データ及び、環境データの計算・把握を継続中です。
物流品質の向上	配送クレーム 発生率低減		年間通じて、目標を達成しております。
エネルギーコスト上昇 対応すべく無理無駄 の排除、効率化目指す	エネルギー原単位 低減		社会状況の影響や生産品目の変化で目標達成には至りませんでした。

(用語説明) エネルギー原単位＝製造量当たりのエネルギー消費量のこと

環境のあゆみ2022 作成にあたり

この環境レポート「環境のあゆみ」は、環境保全活動の報告を主な目的とし、2002 年度(平成 14 年度)より一般の方々へ公開しております。

また、紙資源保護を目的に Web での公開を基本としております。作成単位を極少化するために、社内作成しておりますので、印刷インクや用紙など素材面での対応が十分出来かねている現状ではございますが、重ねてご理解いただきたく存じます。

今回の「環境のあゆみ 2022」の報告対象期間は 2021 年度(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)の活動内容と結果を基本としております。

活動範囲は主にメロディアン株式会社(全事業所)と株式会社メロディアンメンテの環境保全活動です。

昨年発行の「環境のあゆみ 2021」に対する貴重なご意見・ご感想をお寄せ頂きありがとうございました。

読者の皆様の貴重な声を今後も環境保全活動と報告書作成に活用させて頂きたく、今回も簡単なアンケートをご用意いたしましたので、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せ下さい。(発行担当:環境対策委員会事務局)

